

# アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ(年2回決算型)

愛称：**GGO**

追加型投信／内外／株式



<https://youtu.be/nm7QYZzgbk4>



モーニングスター株式会社  
代表取締役社長  
**朝倉 智也**

アライアンス・バーンスタイン株式会社  
執行役員 運用戦略部長  
**岡田 章昌氏**

## Morningstar Award “Fund of the Year 2021” ESG型 部門 優秀ファンド賞 受賞



設定・運用：アライアンス・バーンスタイン株式会社  
評価基準日：2021年12月31日 ESG型 部門(対象ファンド：203本)  
モーニングスター・類似ファンド分類：国際株式・グローバル・含む日本(F) ベンチマーク：なし

Morningstar Award “Fund of the Year 2021”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc.に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2021年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。ESG型 部門は、2021年12月末において当該部門に属するファンド203本の中から選考されました。

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ(年2回決算型)『愛称:GGO』(以下、当ファンド)は、2022年2月10日に発表されたモーニングスター ファンド オブ ザ イヤー2021のESG型 部門で優秀ファンド賞を受賞した。

当ファンドの魅力と今後の展望についてアライアンス・バーンスタイン株式会社 執行役員 運用戦略部長 岡田 章昌氏に聞いた。

**朝 倉:** 素晴らしいパフォーマンスと運用プロセスの両方を、評価させていただきました。当ファンドの運用の特徴、そしてESG投資の魅力を、まずはお聞かせいただけますか？

**岡田氏:** 利益がしっかりと持続的に出る「持続的利益成長企業」に投資することが、長期的な株価のパフォーマンスにつながるというのが、長きにわたるアライアンス・バーンスタインの成長株投資の哲学です。

その持続的利益成長企業を見いだすために今や欠かせなくなっているのが、国連の持続可能な開発目標であるSDGsです。SDGsを実現するための投資は、有望な成長機会になりえます。そしてもう1つが環境や社会に貢献するESGです。こちらは経営の持続性を測る指標となります。

「成長機会としてのSDGs」「経営の持続性としてのESG」という2つの観点から、成長株を選定し投資を行うのが、当ファンドの運用の特徴です。



アライアンス・バーンスタイン株式会社  
執行役員 運用戦略部長  
岡田 章昌氏



モーニングスター株式会社  
代表取締役社長  
朝倉 智也

**朝 倉:** このファンドは1998年に設定されて24年たち、素晴らしいトラックレコードを達成されてきました。今回の受賞は2021年におけるものですが、昨年末から過去5年で見てみても、このカテゴリー(\*1)の上位4%以内に入っています。短期のみならず中長期も高いパフォーマンスを上げている、その成功の秘訣となる背景を教えてくださいませんか？

\*1 モーニングスターカテゴリー:国際株式・グローバル・含む日本

**岡田氏:** アクティブ運用を50年以上手掛けて培われた企業調査能力を、フル活用しています。運用経験とその知見に基づくポートフォリオ構築が、収益の源泉になっています。

長期的な成長機会を考えるためにトップダウンで魅力的な投資領域を見定めることを、この運用チームは2010年代以降行ってきました。その結果、持続的な成長領域とはまさにSDGs領域であると分かってきたのです。

## 卓越したパフォーマンス

### グローバル株式市場を安定的に上回る堅調なパフォーマンス

過去5年間のリターン 期間:2016/12/30-2021/12/30



過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。

2016年12月30日を100として指数化。当ファンドは、分配金(課税前)再投資基準価額のリターン。基準価額は、運用管理費用等(信託報酬)控除後のもの。分配金(課税前)再投資基準価額とは、課税前分配金を決算日の基準価額で全額再投資したものです。運用状況によっては分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。税金、手数料等は考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。グローバル株式は、MSCIワールド(配当込み)を円換算したものです。出所: ブルームバーグ、アライアンス・バーンスタイン(以下、「AB」)。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社はABの日本拠点です。)

特にクリーンエネルギーなどの気候面、ヘルスケアのテクノロジーなどの健康面、そしてエンパワーメントの面でも、皆が社会に参加できるような金融のイノベーションも起きています。そういった投資領域を見定めながら、それにボトムアップの企業調査能力を融合することによって、成長企業を選定しています。

つまり、「企業のビジネスによる成長力」に加えて「成長領域のエンジン」というダブルエンジンが、実を結んだ5年でした。このような調査の成果として、投資パフォーマンスを発揮することができたと考えています。

**朝倉：**投資の世界でも世の中の流れを見極めることが大事だと感じます。ファンド選びの秘訣を質問されたら「過去の実績とコストをチェックしてください」というのがよくある答えだと思いますが、私は「長く付き合える運用会社やファンドマネジャーを見つけてください」と答えます。世界的な時代の流れをとらえながら投資をしていくことは、なかなか難しいことですので、それを見極めて投資してくれる運用会社を見つけるのが、個人投資家にとって大切だと思っています。

このファンドの運用調査体制について、さらに教えていただけますか？

**岡田氏：**企業調査、すなわちボトムアップアプローチに力を入れているのが、アライアンス・バーンスタインの1つの特徴ですが、当ファンドの運用チームは、10年20年先の成長領域の調査を行う、実は弊社の株式運用チームの中で唯一、トップダウンのリサーチも行っているチームです。

アナリストは、当然のことながら四半期ごとなど短期的な決算を追う形で企業のリサーチを行いますが、当ファンドではそのリサーチの延長として、その企業に将来にわたる成長分野があるかどうかも見定めます。アカデミックなリサーチや、プライベートエクイティ(PE)ファンドのようなベンチャー投資に近い情報なども集め、将来を見定めながら調査を行います。

このようにトップダウンとボトムアップを融合しながらアイデアを出し合うことも、より早く有望銘柄を見つけることが可能となり、それが超過収益を生み出すという好循環がおきています。

一例をお話ししましょう。コロナ禍で医療問題が身近な課題として感じられるようになりましたが、当ファンドの運用チームは、2016年ごろにインドを訪問しています。インドでは病院のベッド数が慢性的に不足していて、医療インフラの不足が大きな社会問題となっていますが、国土も広く人口が多いためすぐには不足を解消できません。そこで、遠隔医療などのテクノロジーを活用して課題解決する、アポロ・ホスピタルズ・エンタープライズという病院経営を行っている企業を見だし、2017年から投資をスタートしました。コロナによるプラスの影響などから、当企業の株価はこの2-3年で大きく上昇しています。

このように机上の調査だけではなく現地に赴いて、どのような社会的な問題が起きているか、消費者が本当にそのサービスを欲しているかという調査を行います。投資がすぐに果実を結ぶわけではありませんが、コロナ禍になってからあわててコロナ関連銘柄を探すとといった短期的な銘柄探しではなく、長期的な成長分野に基づいた銘柄調査を行っているのが、当ファンド運用調査の特徴になっています。

## リサーチによる銘柄選択の事例

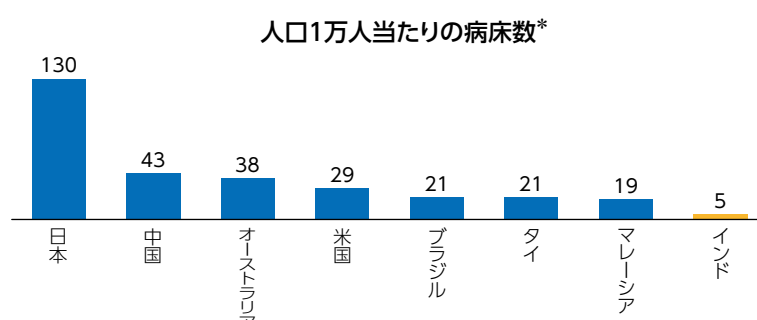
### アポロ・ホスピタルズ・エンタープライズ(インド/ヘルスケア)

投資テーマ：良質な医療へのアクセス

インドの社会的課題

病院ベッド数の慢性的不足

●新興国の中でも最も少ないレベル



過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。上記の個別の銘柄・企業については、あくまで当ファンドの説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また、当ファンドにおける組入れを示唆・保証するものではありません。

\*日本は2018年、中国・米国・ブラジル・マレーシア・インドは2017年、オーストラリアは2016年、タイは2005年のデータ。出所：世界保健機構(WHO)、AB

## リサーチによる銘柄選択の事例

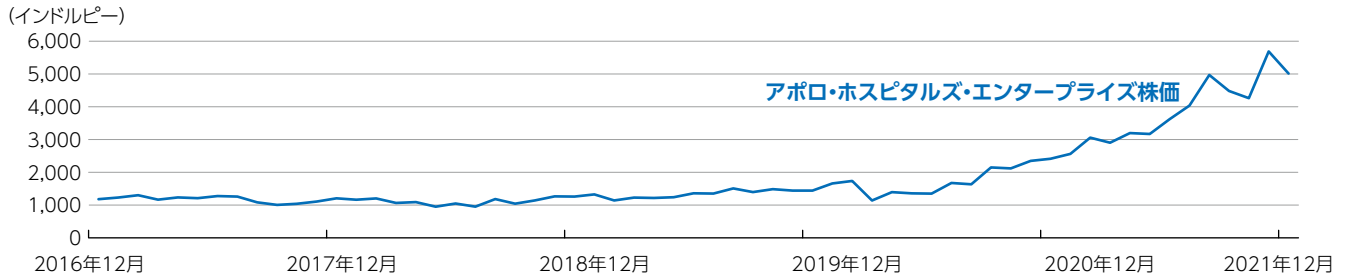
### アポロ・ホスピタルズ・エンタープライズ(インド/ヘルスケア)

投資テーマ：良質な医療へのアクセス

2017年、インドを訪問、リサーチを通じて組入れ

2020年以降、デジタル戦略が奏功し株価上昇

- 病院経営最大手である同社を訪問
- 一般市民、家庭への訪問
- 新型コロナウイルス感染拡大で利用者急増



過去の実績や分析は将来の成果等を示唆・保証するものではありません。上記の個別の銘柄・企業については、あくまで当ファンドの説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。また、当ファンドにおける組入れを示唆・保証するものではありません。  
期間:2016年12月末-2021年12月末。月次ベース。出所:企業ホームページ、ブルームバーグ、AB

**朝倉：**従来は財務分析中心で投資が行われてきましたが、今やESGやSDGsの観点も加味して投資をしていかなければいけない時代ということなのですね。成長性のある銘柄やセクターを探していくということ、これは個人の方ももちろん、普通の機関投資家でもなかなか難しい領域です。御社のようなグローバルで展開している会社だからこそできることだと思います。



最高投資責任者(CIO)-  
サステナブル・  
グローバル・テーマ株式運用  
**ダン・ロアティ**  
(Daniel C. Roarty)

当ファンドは日本では98年の設立ですが、同じ戦略の「AB SICAV I – Sustainable Global Thematic Portfolio」は、アメリカのモーニングスターが非常に高く評価しています。ファンドマネジャーのダン・ロアティさんの運用の評価も極めて高いです。

彼を含めたファンドマネジャーたちが、自分のファンドに自己資金を投資している。まさにセイム・ボート、投資家と利害が一致します。長く付き合えるファンドとして非常に重要なポイントだと思います。そういった意味でも本当に信頼できるファンドですね。

岡田さんのお話を聞いて、自分も長く付き合って投資を試みようという方がたくさんいらっしゃると思います。現在保有している方も安心して今後も投資を続けていこうとお考えになると思います。そんな投資家の皆さまに最後にメッセージをお願いします。

**岡田氏：**今回はESG型 部門で優秀ファンド賞を受賞しました、ありがとうございます。ESGと聞くと、社会貢献を重視するファンドが本当にもうかるのか、そういう疑問を持たれる投資家の方もいらっしゃるかもしれません。

これまでのアクティブ運用の経験から、長期的な成長機会を見極めようとリサーチを重ねた結果、到達した地点が今で言うところのSDGsやESGであり、これらを突き詰めることは投資成果ももたらします。投資リターンと社会貢献、つまり社会への解決策提供が、両立する時代になったと考えています。企業と投資家の皆さまを結び付けるファンドとして当ファンドをご活用いただけましたら幸いです。

**朝倉：**まさにファンド名のとおり世界的な成長の機会、グローバルのグロースのオポチュニティーをつかんでいくファンドですね。本日はありがとうございました。



## アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ(年2回決算型) 『愛称：GGO』

設定・運用：アライアンス・バーンスタイン株式会社  
 評価基準日：2021年12月31日 ESG型 部門(対象ファンド：203本)  
 モーニングスター・類似ファンド分類：国際株式・グローバル・含む日本(F) ベンチマーク：なし

### 投資方針

当ファンドは、日本を含めた世界の株式の中から、「サステナブル投資テーマ」に基づいて投資を行うアクティブファンドである。具体的には、(1)気候、(2)健康、(3)エンパワメントの3つの成長領域から「サステナブル投資テーマ」を策定する。マザーファンドの実質的な運用は、アライアンス・バーンスタイン・グループの4社<sup>(※1)</sup>(以下、アライアンス)が行う。アライアンスのESG運用では、主に「ESGインテグレーション(運用担当者が財務分析に環境、社会、ガバナンスの要素を体系的かつ明示的に組み込む)」を採用している。「MSCIワールド・インデックス(配当金込み、円ベース)」を参考指数とする。年2回(1、7月の各20日)決算。

※1 アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー、アライアンス・バーンスタイン・リミテッド、アライアンス・バーンスタイン・オーストラリア・リミテッド、アライアンス・バーンスタイン・香港・リミテッド



## 選定ポイント

### 2021年は分類内で運用の効率性とリターンが上位20%以内、ESG株式アクティブ平均も上回る

2021年のシャープレシオは3.46となり、類似ファンド分類平均を0.66上回った。類似ファンド分類内では、資源・エネルギー関連株への投資比率を高めていたファンドや好配当株ファンドなどに対して優位となり、上位17%(304本中第49位)となった。類似ファンド分類に属するESG株式アクティブファンドの中でも上位23%(31本中第7位)と、優位性を示している。

2021年のトータルリターンは34.87%となり、類似ファンド分類平均を11.21%上回った。類似ファンド分類内では、MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス連動型などに対して優位となり、上位18%(304本中52位)となった。類似ファンド分類に属するESG株式アクティブファンドの中でも上位26%(31本中第8位)となっている。

### 5年の運用の効率性ではESG株式アクティブでトップ、3年保有は60カ月の全てでプラス、かつ分類平均以上

2021年12月末時点における過去5年間のシャープレシオは1.31と、類似ファンド分類内では上位4%(157本中第5位)、同分類内に属するESGアクティブファンド内では13本中第1位の極めて優れた運用の効率性となった。3年トータルリターンの推移では、同月末までの過去60カ月の全てでプラスとなり、かつ類似ファンド分類平均を上回った。60カ月中54カ月では上位20%以内となっており、ほぼ一貫して上位の優位性を示したことは評価される。

同月末時点の組入比率上位10銘柄は、マザーファンドと参考指数では全て異なっている。直近のモーニングスターサステナビリティレーティング<sup>(※2)</sup>では4(平均以上)が付与されており、ポートフォリオのリスクは低い傾向にある。

※2 米国モーニングスターがESGの観点からファンドのポートフォリオについて5段階評価のレーティングを付与したもので、5(High)が最もリスクが低い。国内籍ファンドは3千本以上に付与。当ファンドの直近は2021年11月末時点。

### 29年の経験を有するベテランファンドマネジャー、欧州の類似戦略は5年リターンが上位7%で5ツ星

マザーファンドの実質的な運用は、アライアンスのサステナブル・グローバル・テーマ株式運用チーム(以下、同チーム)が行う。同チームには責任者であるダン・ロアティ氏、8名の専任アナリストが属している。ロアティ氏は、2013年から同チームの責任者を担っており、運用・調査経験年数は29年、アライアンスの在籍年数は11年となっている。

モーニングスターの調べでは、マザーファンドと類似の運用戦略を採用するルクセンブルグ籍ファンド<sup>(※3)</sup>(以下、ルクス籍類似ファンド)は、ロアティ氏は2013年から運用を担当している。ルクス籍類似ファンドは、2021年12月末時点における過去5年間のトータルリターンがカテゴリー内で上位7%の優れた運用成績となり、同月末時点のモーニングスターレーティングは5ツ星となっている。

※3 ルクセンブルグ籍ファンド=[AB SICAV I – Sustainable Global Thematic Portfolio]、運用成績はオールデストシェアクラス、カテゴリーは「EAA Fund Global Large-Cap Growth Equity」内での評価

## 運用担当者へのインタビュー

### 受賞ファンドについて

当ファンド「グローバル・グロース・オポチュニティーズ(年2回決算型)」(愛称:GGO)は、グローバル(世界の)・グロース(高い成長が期待される)・オポチュニティーズ(投資機会を捉える)、成長株アクティブファンドです。

世界の高い成長が期待される投資機会を捉えるために、世界経済の長期的な成長テーマを発掘するとともに、その成長テーマを追い風に高い利益成長が期待できる成長企業に投資を行っています。

このため、運用チームは国・地域や業種・セクターにとらわれず、持続的な成長が見込まれる投資領域を見いだすことにも注力しており、その中から徹底した企業調査により魅力的な成長企業を厳選しています。

### 当ファンドのESG視点のコンセプト

当ファンドでは、投資企業の利益成長の持続性を重視しており、その持続性を評価する上でESGの視点が欠かせないと考えています。このため、2つの視点でESG評価を活用しています。

第1に、成長領域を見いだすためのSDGsの活用です。当ファンドでは、SDGsを2020年代最大の成長機会と捉え、SDGsの達成に貢献する製品・サービスを提供している企業を投資対象ユニバースとしており、銘柄調査の初期段階からSDGsを取り入れています。国連の持続可能な開発目標、いわゆるSDGsが創出するビジネス機会に注目し、今後拡大が期待される成長領域の道しるべとして活用しています。

第2に、企業評価を行うためのESG評価の活用です。企業の持続的な利益成長のためには、企業経営も持続性を高めていくことが必要であり、ESG課題への対応が企業評価に大きな影響を与えるようになってきています。このため、企業経営の持続性を見極める上で、企業ごとにESG課題を特定し、ESG評価を銘柄プロセスの中に組み込んでいます。

このように、当ファンドでは、持続的な成長機会を捉えるトップダウンの視点としてSDGsを活用するとともに、企業経営の持続性を評価するボトムアップの視点としてESGを活用し、トップダウンとボトムアップを融合した運用リサーチを行っていることに特徴があります。

また、ESG評価については、アライアンス・バーンスタインの株式部門においてチーム横断的に銘柄分析の情報共有を行っており、また債券運用チームとも部門をまたいで横断的な意見交換を行うことを可能とするなど、多種多様な視点から企業のESG課題を分析しています。

### これまでの振り返りと運用実績について

運用開始から20年強となり、企業活動のグローバル化や多角化に伴い、当ファンドが成長企業を発掘するために注目する投資機会も時代とともに変化してまいりました。

2017年4月からはSDGsを銘柄調査の視点として本格的に導入しており、この3月末で丸5年となりますが、市場指数を上回る良好な運用パフォーマンスを実現しています。

この背景には、持続可能な社会の実現に貢献するテクノロジー企業やヘルスケア企業などの成長銘柄が、長期的な成長期待を背景に、株価が大きく上昇してきたことが要因となっています。さらに当ファンドでは、利益成長に対する株価の割高・割安を考慮に入れた銘柄入れ替えを実施しており、中長期的に良好なパフォーマンスを実現できている要因となっています。

### 最後に、投資家のみなさまへメッセージをお願いします

当ファンドは、SDGsやESGの視点を取り入れた成長株投資により、社会的課題解決に貢献するとともに、持続的な成長企業への厳選投資により運用リターンを同時に追求するアクティブファンドです。すなわち、持続可能な社会の実現に貢献する成長企業への厳選投資を通じ、社会、企業、投資家の皆さまの3者の利益を同時に追求する、三方良しのファンドと自負しております。

また、時代とともに変化するグローバルな投資機会を捉えることにより、お客さまの長期グローバル分散投資に長くお付き合いいただける運用を継続し、お客さまの長期の財産形成にお役に立てたらと考えております。

今後とも弊社「グローバル・グロース・オポチュニティーズ」(愛称:GGO)をご愛顧賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



アライアンス・バーンスタイン株式会社  
執行役員 運用戦略部長

岡田 章昌氏

## 当ファンドの主なリスク

当ファンドは、マザーファンドを通じて主として株式などの値動きのある金融商品等に投資しますので、組入れられた金融商品等の値動き(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

### 基準価額の変動要因

#### 株価変動リスク

経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響で株価が変動し、損失を被るリスクがあります。

#### 為替変動リスク

実質外貨建資産に対し原則として対円での為替ヘッジを行いませんので、基準価額は為替相場の変動の影響を受けます。

#### 信用リスク

投資対象金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被るリスクがあります。また、金融商品等の取引相手方に債務不履行が生じた場合等には、損失を被るリスクがあります。

#### カントリー・リスク

発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。一般に新興国市場は、市場規模、法制度、インフラなどが限定的なこと、価格変動性が高いこと、決済の効率性が低いことなどから、リスクが高くなります。

#### 流動性リスク

市場規模や取引量が限られる場合などに、機動的に金融商品等の取引ができない可能性があり、結果として損失を被るリスクがあります。

#### 他のベビーファンドの設定・解約等に伴う基準価額変動のリスク

当ファンドが投資対象とするマザーファンドを同じく投資対象とする他のベビーファンドでの設定・解約等に伴うマザーファンドでの組入金融商品等の売買等が生じた場合、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## お客様にご負担いただく費用

お客様には下記の費用の合計額をご負担いただきます。なお、下記の費用は、お客様が当ファンドを保有される期間等に応じて異なるものが含まれているため、合計額を表示することができません。

### <投資者が直接的にご負担いただく費用>

**購入時手数料** 購入価額と購入口数を乗じて得た金額に、販売会社が別に定める購入時手数料率(3.3%(**税抜3.0%**))を上限とします。)を乗じて得た額とします。

**信託財産留保額** ありません。

### <投資者が信託財産で間接的にご負担いただく費用>

<b>運用管理費用 (信託報酬)</b>	純資産総額に対して <b>年1.705%(税抜年1.55%)</b> の率を乗じて得た額とします。 ※ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支払われます。 ※マザーファンドの投資顧問会社の報酬は、委託会社の受取る報酬の中から支払われます。
<b>その他の費用・ 手数料</b>	金融商品等の売買委託手数料／監査費用／外貨建資産の保管等に要する費用／信託財産に関する租税／信託事務の処理に要する諸費用等 ※投資者の皆様は保有期間中その都度かかります。なお、これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示できません。

## ファンドの主な関係法人

【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社  
【投資顧問会社】 アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー  
【受託会社】 三井住友信託銀行株式会社

## 当資料のご利用にあたっての留意事項

- 当ファンドは、マザーファンドを通じて、値動きのある金融商品等に投資しますので、組入れられた金融商品等の値動き（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）により基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。
- 投資信託は預貯金や保険契約にはあたりませんので、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料は情報の提供を目的として、モーニングスターからの情報をもとにアライアンス・バーンスタイン株式会社が作成した販売用資料です。当資料は信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料に掲載された意見・見通しは作成時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境の変動や、当該意見・見通しの実現を保証するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあります。当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社において投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡しますので、必ずお受取りになり、記載事項をご確認のうえ、投資の最終決定はご自身でご判断ください。

## 販売会社

販売会社は、受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求の受け付け、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金、一部解約金の支払いの取扱い等を行います。

■投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込みは

（2022年4月末時点）

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第15号	●		●	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	●	●	●	●
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	●		●	●
FFG証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第5号	●			●
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	●	●	●	●
キャピタル・パートナーズ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第62号	●			●
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第6号	●			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第3号	●			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第131号	●		●	
野村證券株式会社*	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第142号	●	●	●	●
PWM 日本証券株式会社**	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第50号	●			●
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第152号	●	●		
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第134号	●			
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第7号	●		●	
マネックス証券株式会社*	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	●	●	●	●
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	●	●	●	
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第33号	●	●	●	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2336号	●	●	●	●
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	●	●	●	●

※取次販売会社も含まれます。

（50首順）

※販売会社によっては（年2回決算型）または（予想分配金提示型）のいずれか一方のみのお取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

\* 野村證券株式会社およびマネックス証券株式会社は、受益権の募集・販売の取扱いを停止しています。

\*\*PWM日本証券株式会社は、定時定額で既にご購入いただいているお客様を除く、新規の受益権の募集・販売の取扱いを停止しています。

■ 設定・運用は

【商号等】アライアンス・バーンスタイン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第303号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/  
日本証券業協会/一般社団法人第二種金融商品取引業協会

# アライアンス・バーンスタイン